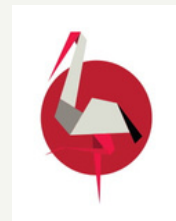


社会福祉法人 福田会 週次報告書

2022年9月6日 / Vol. 017

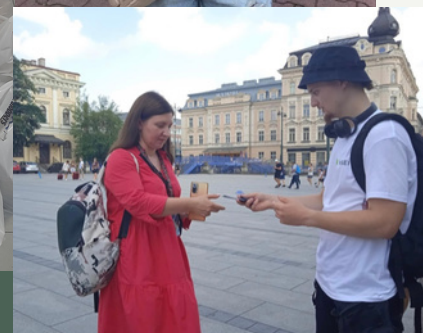


8月29日(月)～9月4日(日)の支援活動

支援所・学生寮への支援物資提供

レストランプロジェクト

食材支援



ご支援総額

2022年9月1日までの寄付総額 98,759,639 円

寄付金使用総額 1453266.77 zł (4,215万円)

8/29(月)～9/4(日)の期間中の寄附金使用額

39042.89 zł(約113万円)

クーポンを利用し食事をする学生たち。

ウクライナへ帰国することの出来ない多くのウクライナ人学生たちは、9月1日より、ポーランドの学校で新学期をスタートさせた。

活動内容



支援所への支援物資提供

クラフ中央駅地下のカリタス支援所へ週2回の支援物資の買い出し支援を実施。

カリタス支援所では頻繁に支援所を訪れる避難民のリストを作成し、福田会で購入した物資をセットにして、毎週金曜日に受け渡す支援を導入。

洗剤・生理用品・歯磨き粉・パスタ・ジャム等をセットにして提供した。

レストランプロジェクト

4店舗と協力し1週間で約870食を提供。

ウクライナ避難民46名が滞在する学生寮は、9月1日より新学期がスタートし、政府からの食事支援が再開したため、8月31日をもって昼食とフルーツの配達を終了した。

食材支援（毎週金曜日）

27家族に1週間分の昼食用食材を提供。

一人あたり50złの予算を設け、合計で3352.82 zł（約97,300円）分の食材を購入。

食材支援に参加しているとある女性は、この買い出しで購入した食材を使い、頻繁にウクライナ料理を作っているという。以下の画像のように、冷蔵庫の中身と料理を紹介してくれた。



ソリャンカ（酸味のあるピクルススープ）



現地の動向



9月1日より新年度が始まり、約18万5000人のウクライナ難民の子どもがポーランドの学校に入学した。

新年度のスタートに伴い、クラクフにあるヤギェウォ大学では、162人のウクライナ避難民に対し、8月末までに学生寮を退去するよう命じた。

このような事例はポーランド各地で発生しており、学生寮に避難していた多くの人が住宅問題に直面している。

また、ポーランド赤十字はウクライナからの避難民に対し、生活必需品購入のために利用することのできる500zł(約14,500円)分のバウチャーを発行した。

このプログラムはノルウェー・アイスランド・リヒテンシュタインの基金によって提供されており、バウチャーは子どものいる家庭・50歳以上の人とその家族・障がい者の保護者に提供され、ポーランド国内の60,000か所以上の店や小売店で利用できる。

物価の高騰しているポーランドにおいて、このような支援は避難民にとってとても貴重なものであり、ポーランドで働く避難民の多くが低賃金労働者とされているため、「節約が出来るのがとてもありがたい。」とコメントしている。

